

第 6 6 回 東日本実業団対抗駅伝競走大会

【出場結果】

実施日：11月3日（月・祝） 8時スタート

コース：熊谷スポーツ文化公園陸上競技場及び公園内特設周回コース

総距離：7区間 74.6km

成績：3時間45分19秒 19/28位

出場者・リザルト：

1区 13.1km 加藤 平 20/30位 38'21"

2区 8.2km 小林 航央 26/30位 24'42"

3区 16.4km 坪井 響己 24/30位 50'09"

4区 8.2km 下田 大翔 20/30位 24'31"

5区 8.2km 小野 修平 21/30位 24'42"

6区 8.2km 関口 大樹 22/30位 25'23"

7区 12.3km 親崎 達朗 22/30位 37'31"

※OP 参加2チーム（混合チーム）は個人記録としては記録されるが、チーム順位は対象外

【レポート】

これまで埼玉県庁出発～深谷駅折り返し～熊谷スポーツ文化公園陸上競技場ゴールの公道開催で行われていた東日本実業団駅伝ですが、今年度より交通規制等の問題もあり、コロナ禍で開催実績のある熊谷スポーツ文化公園内の特設周回コースに舞台を移しての開催となりました。

本大会は元旦に開催されるニューイヤー駅伝の予選会となり、駅伝日本一の舞台に進めるのは上位12チーム。

今年に限っては第70回の記念大会となっており、13位のチームも12位とのタイム差10分以内でゴールした場合には出場資格を与えられることとなります。

全国で行われる予選会で最も過酷と言われる東日本地区は、各チームとも戦力が拮抗しており、ニューイヤー駅伝の出場枠を争う戦いは熾烈を極めます。

また、今年から2部制が採用され、1部の参加チーム数は連盟混成2チーム（OP参加）を含む最大28チームでの出場（5000mの7名平均の上位チームから選出）に制限され、1部から漏れたチームは2部での出場となり、2部で上位2チームに入ったチームが次年度1部での出場権が与えられることとなります。

当社は1部で出場権を得ることが出来、ニューイヤー駅伝の出場枠となる「12+1」のプラチナチケットを懸けて、全28チーム（OP参加2チーム含む）が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場を8時に一斉にスタートしました。

駅伝の流れを決める 1 区に起用された加藤は、1 年半という長期にわたり故障が長引き、これまで苦汁をなめてきましたが、今年度に入り故障も癒え 8 月頃から本格的な練習を再開して、今回の駅伝に向けてコンディションを整えてきたため、絶好調とはいかないまでも、これまでの実績から加藤なら結果を残してくれるという想いを込めて起用しました。

序盤は各チームとも様子を伺う走りとなり、5 km を 14 分 40 秒程での通過となりましたが、ほぼ全チームで形成された大集団は崩れず、加藤も先頭集団の前方でレースを進め、7km 過ぎから集団のペースが上がったことで、集団が徐々に絞られ加藤も先頭集団から少し離れたものの、10km を 29 分 10 秒程で通過する粘り強い走りを見せ、ラストも前方から落ちてくる選手を抜き去り、先頭とは 1 分 9 秒差となる、20 位（OP 参加含む）で 2 区の小林に襷を繋ぎました。

万全な状態とはいえない中でもチームに勢いを与えてくれた加藤の走りは、これまで結果でチームを引っ張ってきたエースとしての意地を感じさせてくれるものでした。



1 区 加藤選手

2区は外国人選手を起用出来るインターナショナル区間となり、外国人選手が所属するチームは、この区間で順位の押し上げを狙いますが、当社は外国人選手との競り合いにも臆せず、前半から突っ込んで走ることが出来る小林を起用しました。

小林は加藤から襷をもらおうと勢いよく走りだし、前方を走る日本人選手を早々に捉え順位を上げる走りを見せました。

このままの勢いで走ってくれる事を期待しましたが、序盤に突っ込んだ分、中盤以降は表情にも苦しさを感じられ、ペースが鈍りだすと順位を3つ落とし、22位（OP 参加含む）で3区の坪井に襷を渡しました。

インターナショナル区間という事もあり、気負いの部分が後半の失速に繋がってしまいましたが、攻めた結果であり、小林は駅伝に対する熱い気持ちを走りで見せてくれました。



2区 小林選手

3区は4.1kmの周回コースを4周（16.4km）し、この駅伝最長区間となります。

各チームともエースを投入し、駅伝の勝負を決定づける区間となりますが、当社は今年の春先に10000mで28分台をマークし、キャプテンとしてチームを引っ張ってきた坪井を自信を持って起用しました。

前方を走る警視庁とは約50秒差の状況で、目視では僅かに確認できる位置での単独走で走り出しました。

2周目まで、1km3分を刻むペースでリズム良く軽快なピッチを刻みましたが、3周目に入ると後方から自衛隊体育学校、NTT E×C パートナグループの2チームが徐々に坪井との差を縮め、坪井は表情が厳しくなり4周目に入ったところで2チームに逆転を許しました。

逆転を許した坪井でしたが、エース区間を任された意地を見せ、最後まで懸命に2チームを追い24位（OP 参加含む）で4区の下田に襷を渡しました。



3区 坪井選手

4 区に起用した下田は、今回は怪我で補欠に回った救仁郷とともに 10000m で 28 分台の自己ベスト記録をもって入社してきた期待の新人です。

入社後は学生時からの環境の変化に戸惑い、なかなか本来の走りが出来ずにいましたが、10 月に入り、一気に力を取り戻して、2 週間前に行った駅伝の最終選考会ではチームトップの記録で正選手の座を勝ち取りました。

インターナショナル区間となる 2 区での起用も考えましたが、今回は自分のペースをしっかりと刻める 4 区に起用しました。

3 区の坪井から襷を渡された下田は、伸びのあるストライド走法で TeamNitro を序盤で抜き去ると、2 周目では NTT E×C パートナーグループに追いつき、暫くは並走を続けましたが、鋭いラストスパートを見せ、約 10 秒差をつけて順位を 2 つ押し上げる 22 位（OP 参加含む）で 5 区の小野に襷を渡しました。

下田は駅伝での競り合いでも勝負強さを見せてくれましたので、今後は更なる成長を遂げ、次世代のエースとしてチームを牽引する選手になる事を期待します。



4 区 下田選手

5 区に起用した小野は、腰高でバネのある走りが特徴でトラックレースを得意とする選手ですが、駅伝でチームに貢献するという強い信念の下、駅伝での単独走を想定した地道な練習を重ねてきました。

その努力が実り、今年度の男鹿駅伝の 1 区でも快走を見せており、ロードでも安定した走りが出るまでに成長しました。

5 区に小野を起用出来ることは当社の強みであり、ここで前方のチームとの差を詰めておきたいところですが、その期待通り、序盤から 1km3 分ペースを確実に刻み、約 1 分近く前方を走る自衛隊体育学校との差をじわじわと縮めると、最後までペースを落とすことなく約 30 秒差まで詰め、順位こそ変化はないものの、駅伝の流れを途絶えさせない好走を見せて 6 区の関口に襷を渡しました。



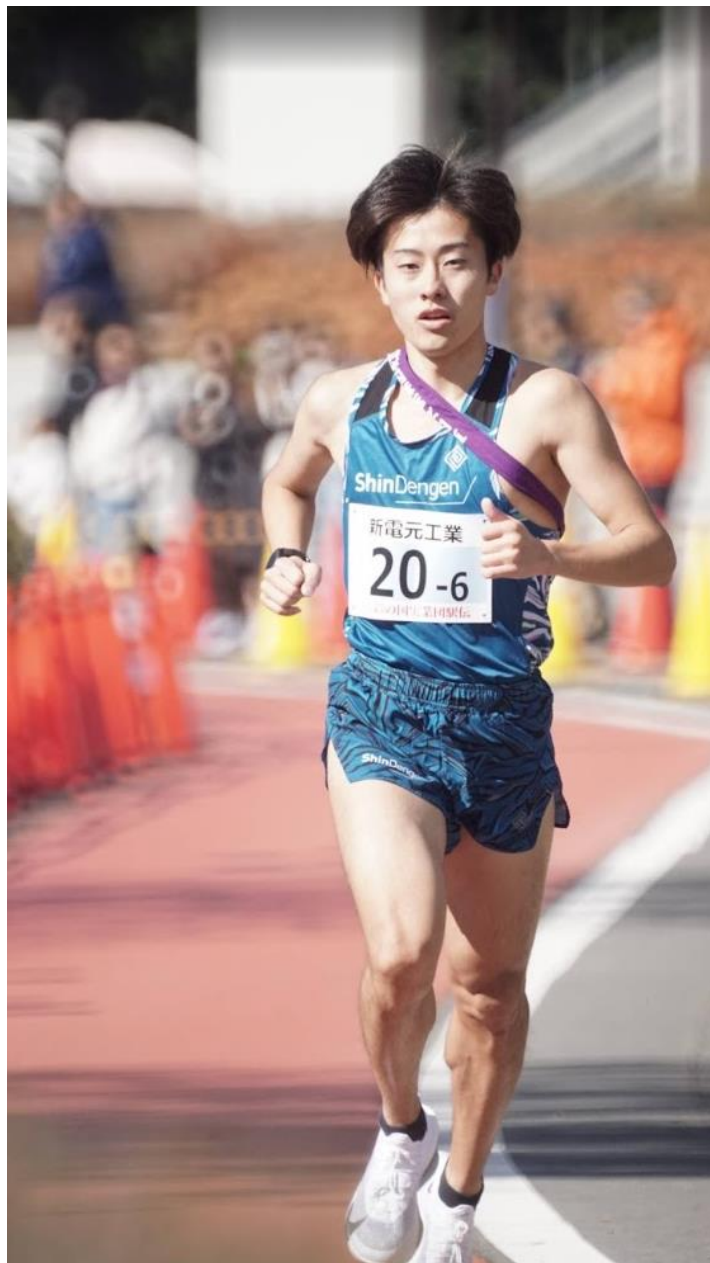
5 区 小野選手

6 区に起用した関口は、トラックレースでは目立った活躍がないものの、東日本実業団駅伝ではこれまで安定した結果を残しており、駅伝に関しては堅実な走りが持ち味のランナーです。

4 区の途中から北風が吹きだし、6 区の出走時になると強い北風がランナーを苦しめましたが、気象コンディションに左右されない関口は、逆に吹き荒れる風を味方につけて、前方を走る自衛隊体育学校との差を詰めて走りました。

一方、ここでアンカーの親崎が待つ第 6 中継所では先頭との差が 10 分差となり、無念の繰上スタートとなってしまいました。

関口は最後まで自衛隊体育学校との差を詰め、無人の中継所にゴールした時には 1 秒差まで詰め寄りましたが、後ろを走る NTT E×C パートナーグループとはその差を詰められて 32 秒差と、アンカーの走り次第では大きく順位が入れ替わってしまう、最後まで読めない状況となりました。



6 区 関口選手

7 区のアンカーに起用された親崎は、繰上げスタートとなり、序盤から集団走となりましたが、実際には 1 秒前にいる自衛隊体育学校、32 秒後ろの NTT E×C パートナーグループとの位置関係を気にしながらのレース展開となります。

周回コースを 3 周するコースとなりますが、1 周目こそ集団は崩れなかったものの、2 周目の途中で NTT E×C パートナーグループが飛び出すと親崎が後方にピッタリとつき、自衛隊体育学校がやや遅れる形でレースは進み、3 周目に入ったところで、NTT E×C パートナーグループがスパートを掛けると親崎が離れ、自衛隊体育学校も親崎から 5 秒程後方の位置で粘りの走りを見せるといった、最終順位が最後まで分からないスリリングな展開に。

最終的には、NTT E×C パートナーグループが親崎に先着したものの、当社からは 22 秒遅れ、自衛隊体育学校は 2 秒差で当社が僅かに競り勝ち、総合 19 位（OP 除く）を死守して 3 時間 45 分 19 秒でのゴールと、冷静沈着な走りをしてくれた親崎の頑張りもあり、強化実業団チームに競り勝つ結果を残すことが出来ました。



7 区 親崎選手



最後まで白熱した着順争い！！



【総括】

本大会は、チームとして年間最重要レースに掲げ、記録としては 1km 平均 3 分切り、順位としては強化実業団チームに 1 つでも競り勝つことを目標として、レースに臨みました。

結果として 1km 平均 3 分 1 秒となり、記録としては目標に届きませんでした。強化実業団チームには 2 社に競り勝つことが出来ました。

フルタイム勤務で競技を行う私たちにとっては非常に価値のある結果であり、選手達の頑張りは賞賛に値すべきものですが、一方で、最終的な目標となるニューイヤー駅伝の出場枠に入る為には 1km 平均 2 分 53 秒で走る必要があるという事実も受け止める必要があります。

今回は当社もエース格の選手を故障で欠くなど、コンディショニングの面で見直すことは多々ありましたので、来年度の大会に向け、あらためてチームとしての課題を洗い出し、課題克服を目指して日々の競技活動に邁進して参ります。

また、今回の駅伝に際し、朝早くから沿道に駆けつけて頂き温かいご声援を頂いた多くの関係者の皆さま、テレビ放映で当社に多くのご声援頂いた皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援の程、何卒宜しくお願い致します。

以 上